



FUJIKURA COMPOSITES

BUSINESS REPORT

2021

第142期 年次報告書
2020年4月1日～2021年3月31日

ニューノーマル時代での 持続的成長を目指した 回復期(守り)と成長期(攻め)による 「新生藤倉コンポジット」の 構築に邁進していきます。

代表取締役社長 森田健司



日頃は格別のご支援を賜りお礼申し上げます。

ここに第142期年次報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期は、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、極めて厳しい状況からスタートしました。一時は持ち直しの動きもありましたが、感染症収束の見通しは不透明で、本格的な回復時期は業種・業態、地域ごとに差が生じると考えられます。

このような不透明な環境下で、当社グループは、収益の過半を占めている自動車関連や半導体関連メーカーの調査・予測を実施し、当期を含めた5カ年、2021年3月期から2025年3月期に至る第6次中期経営計画の策定を進めてきました。ニューノーマルと言われる新たな時代での持続的成長に向け、世界経済の回復と成長に連動した各種戦略を模索し、「新生藤倉コンポジット」の構築を見据えた第6次中期経営計画は、コロナ禍の中で進めた販管費削減を継承し、新たな成長分野を育成することを視野に入れた経営計画としました。

第142期の業績は、当社グループの主力顧客である自動車関連からの期初受注の低迷が響き減収となった他、顧客の大幅減産の影響を受けた引布加工品セグメントや、

大都市圏で度重なる緊急事態宣言発出等の影響から、小売店での販売が振るわなくなったアウトドア用品も減収となりました。一方、住宅設備機器や半導体・液晶分野は市場の設備投資が堅調に推移し、利益率が高いアフターマーケット市場のゴルフカーボンシャフト製品も好調で、医療機器市場も増収となり、業種・業態で差が出る結果となりました。

一方、減収となる中で、グループ全体で残業規制を徹底し、設備投資を最小限にとどめるなど販管費削減を行い、利益率の改善に注力しました。

このようなことから当期における連結業績は、売上高は292億7千5百万円（前年同期比8.5%減）、営業利益は11億7千2百万円（前年同期比31.5%増）、経常利益は15億5千7百万円（前年同期比86.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は11億8千2百万円（前年同期比202.6%増）となりました。

当社グループは、産業用資材、引布加工品、スポーツ用品を中心としたゴム製品の製造と新素材の開発・加工を事業としており、多くの事業セグメントを有しています。時代の変化に伴う特定の事業セグメントの受注減に伴うマイナスの影響を、他の事業セグメントの成長によるプラスで

打ち消し、リスク分散をすることで、安定して着実な成長をしてきました。今後も既存の事業を大切に育成することはもちろんですが、並行して次代の成長を担う新市場への参入、新製品の開発に注力していきます。

2020年4月、当社グループは事業部制を導入しました。第6次中期経営計画では、当社グループの強みを最大限活かすために、各事業部ごとに事業戦略を策定し、事業ポートフォリオの再構築を進めていきます。第6次中期経営計画を5カ年としたのは、当期を含む2021年3月期から2023年3月期の3カ年は、新型コロナウイルス感染拡大による世界経済の減退から回復する期間と位置付けたからです。当期同様に、顧客からの受注やサプライチェーンが不安定で減収となる可能性もあることから、この期間は、受注確保と原価低減活動と効果的な経費運用で利益率を高める回復期、「守り」の3カ年としました。

一方、この3カ年を待たずして新型コロナウイルス感染拡大を克服し、持続的成長に舵を切れる業種・業態や地域が出てくることも考えられます。既に欧米の一部地域では、ワクチン接種や各種政策によって、経済活動の再開が進んでいます。そこで、回復期の最終年度である2023年3月

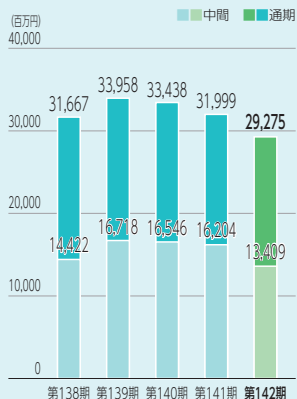
期から2025年3月期の3カ年を、回復期に培ったムリ・ムダのない高収益な生産体制、リーンマネジメントを活かして、持続的な成長を目指す成長期、「攻め」の3カ年としました。2023年3月期は、業種・業態によって回復にタイムラグが生じ、「守り」と「攻め」の双方がまだら模様となる事業年度となる可能性が高いことから、5カ年計画のバッファ期間と位置付け、着実に「新生藤倉コンポジット」の構築を進めていきます。

株主の皆様に対する配当につきましては、中長期における事業の持続的な成長を支えるための原資として内部留保を確保した上で、配当性向、株主資本配当率など勘案しながら安定配当することを基本方針としております。以上のことから、2021年3月期の配当については、1株当たり12円(中間5円、期末7円)といたしました。また、当社は、2021年10月25日をもって創立120周年を迎えます。そこで、2022年3月期の1株当たりの配当金は、中間8円、期末8円に、中間で2円の記念配当をプラスして、通期で18円を予定しております。

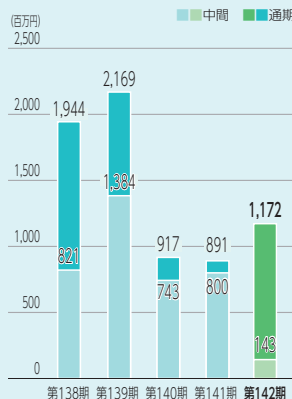
株主の皆様には、なお一層のご愛顧とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月

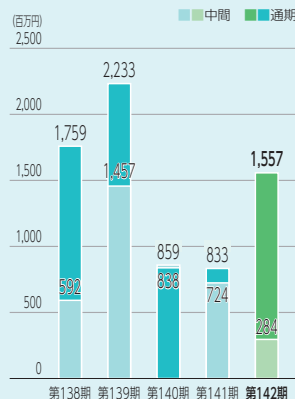
連結売上高の推移



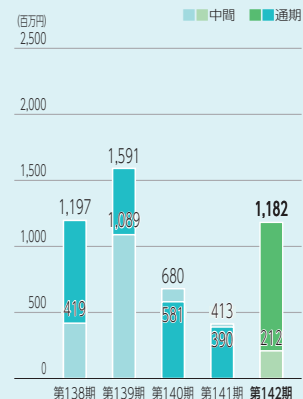
連結営業利益の推移



連結経常利益の推移



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益の推移



Q1 当期を振り返っていかがでしょうか。

2021年3月期（当期）は、新型コロナウイルス感染拡大による世界的な経済活動の停滞からスタートし、2020年7月を底にようやく受注が戻り、その後は順調に業績も回復してきましたが、売上は前期を下回る結果となりました。一方、コロナ禍の中で、徹底した残業規制や必要最小限に設備投資を抑制するなど、徹底した販管費削減に努めた結果、利益面では前期を上回り、減収増益となりました。

また、コロナ禍によって事業環境が激変したことから、これまでの延長線上で構想していた中期経営計画を白紙に戻し、アフターコロナを見据え当期を含めた5カ年の第6次中期経営計画策定に注力しました。経験のない未曾有の危機となったコロナ禍の収束が見通せない不透明な事業環境の中で、第5次中期経営計画で目標とした、10年先を見据えた持続的な成長と企業価値向上を目指すための事業戦略策定に注力した1年でした。

Q2 当社グループの主な事業「産業用資材」「引布加工品」「スポーツ用品」について状況をお聞かせください。

「産業用資材」では、当社グループの主力である工業用品部門の自動車関連は、期初の厳しい見通しから一転して中国・北米市場が牽引し回復基調となりましたが、ASEAN地域は停滞し、減収となりました。一方、住宅設備機器関連は堅調に推移し、制御機器部門も半導体・液晶市場の設備投資が好調で、医療機器市場も堅調に推移

しましたが、自動車関連の減収を補うには至りませんでした。

「引布加工品」では、コロナ禍の影響で、引布部門も印刷材料部門も減収となった一方、加工品部門では、救命設備など海外向け舶用品が堅調に推移しました。

「スポーツ用品」では、2020年7月以降ゴルフ市場が大きく回復し始め、北米モデル『VENTUS』と日本モデル『Speeder EVOLUTION VII』が多くのプロゴルファーに愛用されたことで、当社ブランド商品の販売が好調に推移しました。アウトドア用品部門は、大都市圏で度重なる緊急事態宣言等の発出の影響を受け、減収となりました。

Q3 今後の課題と対策についてお聞かせください。

当期を含む5カ年、2020年4月から2025年3月に至る第6次中期経営計画は、2021年3月期から2023年3月期の「回復期」と、2023年3月期から2025年3月期の「成長期」としました。新型コロナウイルス感染症からの回復には、2年から3年を要することを鑑み、前半は「回復期」として受注確保と販管費削減、生産性向上に注力します。その後、世界経済が各種問題を克服し、再び持続的な成長へ回復した3カ年は、回復期で培ったリーンマネジメント体制を活かし、事業の成長を追求する「成長期」としました。このようにして「守り」と「攻め」の2段階で各事業部の事業戦略を立案し、後半の「成長期」では、第5次中期経営計画で目標とした3カ年合計連結売上高1,000億円に再トライする中期経営計画としました。

自動車事業部では、2021年4月からNEP（次世代自動車プロジェクト）を立ち上げ、各自動車メーカーと次世代自動車の軽量化に向け、ゴルフシャフトに採用しているCFRPとゴムのコンポジット製品の研究開発に着手しました。当社の複合技術の強みを活かした戦略を立案し、将来の事業基盤としていく計画です。

H&I事業部では、熱を感知して膨張する「熱膨張ゴム」を活用した防火材や、摺動性を高めた材料を活用したシール用機能製品の開発を進め、住宅設備分野でのシェア拡大を図ります。

制御機器事業部では、精密シリンダ、精密加圧ヘッド、除振台などで積み重ねた技術を蓄積し、大型製品から精密製品に至る、グループ内の金属切削加工技術の統合を進め、自社装置販売への展開を目指していきます。同事業部に所属する医療分野では、原町工場の新LIM棟での量産実績を積み上げ、大型案件の受注と新規開発へのアプローチを強化していきます。

引布加工品事業部では、新型筏による整備事業契約獲得や医療用陰圧 TENT 販売の拡大に注力していきます。

印材事業部では、市場の衰退が見込まれる中で拡大が見込まれる缶やカップ麺、ペットボトルキャップ等の曲面印刷用のブランケットの開発・導入を進めていきます。

ACP事業部では、好調であるゴルフシャフトはグローバルなブランディング戦略を推進する一方、産業用品はこれまでの多様な商品開発から、ロボットやドローンなどの市場への絞り込みを行い、複合技術を駆使して大型量産案件の立ち上げを模索します。また、ゴルフ以外の生涯スポーツ市場への参入の検討も進めていきます。

Q4 最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

第6次中期経営計画の中には、事業活動の他にも昨今注目されているSDGsへの取り組みとして、SDGs推進委員会を設置し、優先課題の選定とKPIの設定を行うなど、企業価値向上と持続的な成長に向けた取り組みにも着手します。これらも含め、「新生藤倉コンポジット」となるための基盤構築を着実に進めていきます。

株主の皆様には、倍旧のご愛顧と、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



TOPICS 01

「NEP」組織化

新設されたNEP(次世代自動車プロジェクト)推進室。これまで自動車社会の変遷へ適応してきた、コア技術を結集いたします。10年先を見据えた次世代の自動車社会の変化を捉え、積極的な技術開発と事業展開を推進いたします。

TOPICS 02

業務改革推進へ向けたDX化の推進

DX(デジタルトランスフォーメーション)化に向けて、データとデジタル技術を活用します。企業の競争上の優位性を確立することを最終的な目的とし、ペーパーレスはもとより、業務の改善を初期段階とし、第144期投資に向けて現状分析を行ってまいります。

TOPICS 03

SDGs推進委員会の設置

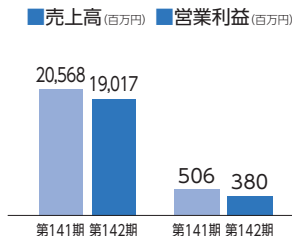
SDGs推進委員会を設置し、各事業部と協働してSDGsに向けた事業活動を推進しております。





産業用資材

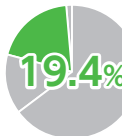
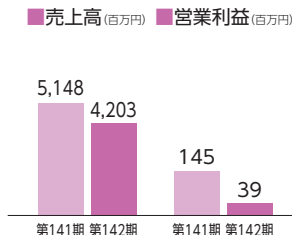
工業用品部門は、住宅設備機器関連は堅調に推移しました。自動車関連は、国内において上期受注が低迷したことで厳しい見通しとなりましたが、中国・北米市場が牽引し回復基調となりました。ただし、コロナ禍の影響が残るASEAN地域が停滞するなど回復途上であり、全体では減収減益となりました。制御機器部門は、半導体・液晶市場の設備投資が好調を維持し、また、医療機器市場も堅調に推移し増収増益となりました。この結果、売上高は190億1千7百万円(前年同期比7.5%減)、営業利益は3億8千万円(前年同期比24.9%減)となりました。



引布加工品

引布部門は、第3四半期以降音響関連が好調だったものの、コロナ禍の影響を受け自動車・電気電子部門が大幅減産を余儀なくされ、減収減益となりました。印刷材料部門は、コロナ禍の影響を世界的に受け減収減益となりました。加工品部門は、国内船用市場や産業用資材関連で受注低迷の影響がありましたが、救命設備など海外向け船用品が堅調に推移し、減収増益となりました。

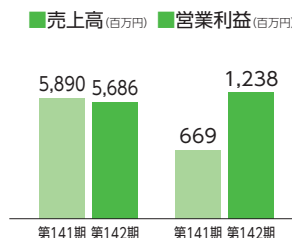
この結果、売上高は42億3百万円(前年同期比18.3%減)、営業利益は3千9百万円(前年同期比73.0%減)となりました。



スポーツ用品

ゴルフ用カーボンシャフト部門は、2020年7月以降ゴルフ市場が大きく回復し始め、さらに北米モデル『VENTUS』と日本モデル『Speeder EVOLUTION VII』が多くのプロゴルファーに使用されたことにより自社ブランド商品の販売が好調に推移し、ゴルフ市場における高いシェアを維持したことにより増収増益となりました。アウトドア用品部門は、昨秋から需要の回復傾向が見られたものの、大都市圏で度重なる緊急事態宣言等の発出の影響を受け、減収減益となりました。

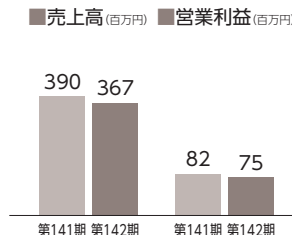
この結果、売上高は56億8千6百万円(前年同期比3.5%減)、営業利益は12億3千8百万円(前年同期比84.9%増)となりました。



その他

物流部門は、倉庫関係の運用は堅調でしたが、運送部門は第3四半期以降回復傾向となったものの、コロナ禍の影響が大きく減収減益となりました。

この結果、売上高は3億6千7百万円(前年同期比6.1%減)、営業利益は7千5百万円(前年同期比9.0%減)となりました。



連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

■ 連結貸借対照表 (要旨)

科 目	期 別	当期末 2021年3月31日現在	前期末 2020年3月31日現在
資産の部			
流動資産		20,707	20,801
現金及び預金		5,780	5,528
受取手形及び売掛金		9,698	9,390
商品及び製品		1,854	2,236
仕掛品		2,174	2,376
原材料及び貯蔵品		695	700
その他		557	628
貸倒引当金		△53	△59
固定資産		14,168	14,825
有形固定資産		12,117	12,906
無形固定資産		123	174
投資その他の資産		1,927	1,743
資産合計		34,875	35,626

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当期末 2021年3月31日現在	前期末 2020年3月31日現在
負債の部			
流動負債		7,981	8,779
固定負債		2,074	3,033
負債合計		10,056	11,812
純資産の部			
株主資本		24,672	23,770
資本金		3,804	3,804
資本剰余金		3,212	3,212
利益剰余金		17,676	16,774
自己株式		△20	△20
その他の包括利益累計額		147	43
純資産合計		24,819	23,813
負債純資産合計		34,875	35,626

■ 連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当期	前期
		2020年 4月 1日から 2021年 3月31日まで	2019年 4月 1日から 2020年 3月31日まで
売上高		29,275	31,999
売上原価		22,687	24,615
売上総利益		6,587	7,383
販売費及び一般管理費		5,415	6,492
営業利益		1,172	891
営業外収益		478	204
営業外費用		92	262
経常利益		1,557	833
特別利益		—	1
特別損失		32	256
税金等調整前当期純利益		1,525	577
法人税、住民税及び事業税		333	169
法人税等調整額		9	17
当期純利益		1,182	390
親会社株主に帰属する当期純利益		1,182	390

■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当期	前期
		2020年 4月 1日から 2021年 3月31日まで	2019年 4月 1日から 2020年 3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,129	2,719
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,374	△ 2,169
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,449	△ 96
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 54	△ 112
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		251	340
現金及び現金同等物の期首残高		5,528	5,188
現金及び現金同等物の期末残高		5,780	5,528

会社概要 (2021年3月31日現在) Corporate Data

■ 会社概要

創 業 1901年 10月
資 本 金 38億 429万円
従 業 員 数 連結 2,461名
単体 737名

■ 役員 (2021年6月29日現在)

代 表 取 締 役 森 田 健 司
取 締 役 社 長
常 務 取 締 役 金 井 浩 一
常 務 取 締 役 高 橋 秀 剛
取 締 役 弓 削 千 賀 志
取 締 役 (社 外) 長 浜 洋 一
取 締 役 (社 外) 佐 々 木 聡
監 査 役 植 松 克 夫
監 査 役 (社 外) 細 井 和 昭
監 査 役 (社 外) 田 中 響 子

● 取締役 長浜洋一及び佐々木聡並びに監査役 細井和昭及び田中響子の各氏を、東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

■ 子会社 (*:連結対象)

会社名	国名	主要な事業内容
* 株式会社キャラバン	日本	アウトドア用品の販売
* 藤栄運輸株式会社	日本	運送事業
* Fujikura Composite America, Inc.	米国	ゴルフ用カーボンシャフトの販売
* FUJIKURA GRAPHICS, INC.	米国	印刷用ブランケットの販売
* IER Fujikura, Inc.	米国	工業用ゴム製品の製造販売
* 杭州藤倉橡膠有限公司	中国	工業用ゴム製品の製造販売
* 安吉藤倉橡膠有限公司	中国	工業用ゴム製品の製造販売
* FUJIKURA COMPOSITES HAIPHONG, INC.	ベトナム	産業用資材、引布加工品及びゴルフ用カーボンシャフトの製造
株式会社藤加工所	日本	救命筏、産業資材の製造
株式会社アールアンドアールフジクラ	日本	ゴルフクラブのリシャフト・フィッティング
株式会社藤光機械製作所	日本	産業用精密部品の製造
株式会社福島キャラバン	日本	アウトドア用品の流通
株式会社アイオス	日本	精密金属加工
Fujikura Composites Korea, Co., Ltd.	韓国	工業用ゴム製品、制御機器、アウトドア用品の販売
Fujikura Composites Europe B.V.	オランダ	印刷用ブランケットの販売
藤栄サービス株式会社	日本	障害者雇用を目的とした特例子会社

■ 当社グループ主要製品及び商品

工業用品

ダイヤフラム、BFダイヤフラム、シール部品、精密部品、アンブレラ、ダックビル、防振ゴム、水ガバナ

制御機器

各シリンダ、レギュレータ（減圧弁）、流量調整弁、チェック弁、リリーフ弁

電気材料

超低硬度材料、各種機能性テープ、常温収縮チューブ、導電・絶縁材料、風力発電機用ブレード保護シート、マグネシウム空気電池

引布

ゴム引布、極薄ゴムシート、接着・粘着処理、ラテックス

印刷材料

印刷用ブランケット

加工品

船舶用救命設備、航空機用救命設備、コンサベータ、産業用資材

スポーツ用品

ゴルフ用カーボンシャフト、産業用CFRP製品、アウトドア用品

■ 当社事業所

本 社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明

大阪支店

〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4

勝田営業所

〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島2-6-21

名古屋営業所

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-40

岩槻工場・エンジニアリングセンター

〒339-8510 さいたま市岩槻区上野6-12-8

原町工場

〒975-0027 福島県南相馬市原町区上北高平字植松268

加須工場

〒349-1158 埼玉県加須市新利根1-4-4

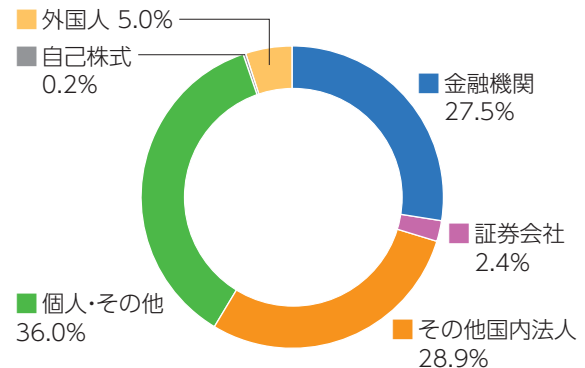
■ 株式の状況

発行可能株式総数 90,000,000株

発行済株式総数 23,446,209株

株 主 数 11,539名

■ 所有者別持株比率



■ 大株主の状況

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
株式会社フジクラ	4,776,300	20.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,670,400	7.14
富国生命保険相互会社	950,000	4.06
藤倉化成株式会社	569,840	2.44
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	539,900	2.31
藤倉航装株式会社	515,210	2.20
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	447,800	1.91
三井住友海上火災保険株式会社	437,500	1.87
三井住友信託銀行株式会社	418,000	1.79
藤倉コンポジット従業員持株会	404,360	1.73

出資比率は、自己株式49,537株を除いて計算しております。

株主メモ Stockholder Memo

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会の 議決権・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
公告掲載方法	当社ホームページ
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) ※土・日・祝祭日を除く9:00～17:00

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されてしまった株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

*確定申告をされる株主様は、大切に保管ください。

藤倉コンポジット株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7 TOC有明
(証券コード：5121)

フジクラシャフト新商品のご案内

Fujikura USにて、PGAツアー使用率No.1を奪取すべく、
トッププロの要求に応えるシャフトとして開発した VENTUS (ベンタス)。
たたけるフィーリングの飛距離とコントロール性能を両立した元調子系シャフト。
2018年PGAツアーでプロモーションを始め、国内外のツアープロから高い信頼と実績を積み重ねてきました。
日本でも VENTUS BLUE を2020年2月に発売、翌年2月に VENTUS BLACK も追加発売。
今では、トッププロからアマチュアゴルファーまで人気のシャフトとなっております。



商品情報の詳細は、HPをご覧ください。

<https://www.fujikurashaft.jp/>

フジクラシャフト

検索

カチッ

この年次報告書は、当社のブランケットを使用して印刷しております。

